

令和8年度 府中町立府中中央小学校 学校自己評価表【当初評価】

学校教育目標	<p style="text-align: center;"><b>自ら伸びる</b></p> 「問い直し」を大切に、教育活動に山場を創り、「生きた言葉」で自覚化して、他者と関わり協力して乗り越えていく	経営理念 ミッション 子ども観 ビジョン	<p style="text-align: center;"><b>「学校（地域）は子どもが育つ土壌である」（自ら伸びる意思の形成をなす土壌）</b></p> 【使命】地域と共に児童も大人も共に成長していく機会・場を創造する学校 【子ども観】子どもは発達の当事者であり、未来の大人として敬意を払うべき存在 【経営展望】「教師こそ最大の教育環境」を自覚し、日々の教育活動の中に子どもを見つめる“まなざし”の研鑽
--------	---	-------------------------------	--

ビジョン （中期経営目標）実現に向けての現状（進捗状況）と今年度の位置付け	<p>本校はこれまで、「自ら伸びる」を学校の方向目標として、児童一人一人の発達の可能性に着目しながら教育活動を推進してきた。昨年度は、教師の“まなざし”の変容を通して、子どもの内面を丁寧に見取り、支持的風土のある学級づくりが進むなど一定の成果が見られた。一方で、教師の理想像を子どもに当てはめてしまう傾向や、子どもの思いや考えの“ずれ”を学びの深化につなげきれていないこと、支持的風土にとどまり学びの集中感・緊張感を生み出す学習集団への高まりが十分でないことが課題として明らかとなった。</p> <p>本年度は、本校は子ども観を「子どもは発達の当事者であり、今を生きる人間として敬意を払うべき存在」と再定義する。子どもたちの“今”の姿や内面により一層寄り添い、その子がどのように伸びようとしているのかを見取る教師の“まなざし”の研鑽を一層進めていく。その上で、子ども同士の思いや考えの“ずれ”や葛藤を探究の契機として位置付け、学びの集中感・緊張感を生み出す学習集団へと高めていくことを目指す。</p> <p>さらに、日常の教育活動の中にある小さな気づきや心の動きを大切にしながら、子どもの育ちの過程を価値付け、子どもとともに問い直しを重ねていくことで、「自ら伸びる意思」の形成を図る。そして、教師自身の在り方を問い続けながら、学校経営理念「学校（地域）は子どもが育つ土壌である」の実現に向けた取組を一層深化させていく。</p>
--	---

学校経営の柱に係る考え方

a 「生きた言葉」が生まれる学級づくりを支える学年経営（学年経営力）	学級・学年づくりを「自ら伸びる意思」の形成につなげるため、子どもの思いや願いに寄り添う教師の“まなざし”を重視する。今年度は、「じまんの俳句」を学級生活の中から生まれる体験等と結びつきを強め、学級づくりへと転換し、学級目標と「はちの子の心得」を連動させながら、子どもや学級のよさを見取り、価値付けていく。さらに、子どもが心を寄せる対象との出会いを学年団で支援し、学級らしさの深化を図る。
b 「問い直し」のサイクルを意識した授業づくり（教師の授業力）	子どもの言葉や態度の奥にある考えを丁寧に見取り、その可能性を生かした授業づくりを行う。学級活動や行事と関連させながら、子どもが本当に追求したい課題を設定し、思いや考えの“ずれ”を問い直しの契機として活用することで、考えを深め合い、集中感・緊張感のある学びを通して「自ら伸びる意思」の形成を図る。
c 自己認識を問い直す行事づくり（児童自治）	子どもの主体性の可能性を見取る教師の“まなざし”を基に、学級活動や授業、地域との関わりで培った内面が発揮される行事を子どもと共に創造する。行事を通して自らの課題に向き合い、成長しようとする意欲を高めるとともに、“その子らしさ”“学級・学年らしさ”を大切にしたい児童自治の充実を図る。
d 児童や大人の集いが充実する環境づくり（地域との協働）	保護者や地域と連携し、子どもを見る“まなざし”を交流しながら子ども理解を深める関係づくりを進める。学校での学びを地域で発揮できる場を協働して創造し、子どもの姿を通して大人も学び合う機会を広げることで、「子どもを真ん中にした地域づくり」の充実を図る。

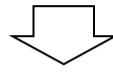
評価計画（中期経営目標を設定して2年目）

A 中期（3年間）経営目標	B 短期（今年度）経営目標	C 目標達成のための方策	D 評価指標	目標値（%）	E 評価結果			
					10月		2月	
					達成値	評価	達成値	評価
a 「生きた言葉」が生まれる学級づくりを支える学年経営	暮らしの中で「じまんの俳句」が生まれる学習集団づくり	・学級目標と「はちの子の心得」を連動させ、“その学級らしさ”を追求する。 ・「じまんの俳句」を児童が相互評価することで、互い良さを認め合う関係づくりを構築していく。	・「学校楽しいーと」学級集団における適応感	80%				
			・「はちの子の心得」振り返りが学級・学年の目指す姿を現している	80%				
b 「問い直し」のサイクルを意識した授業を構築する研究推進	集中感・緊張感が生まれる授業づくり	・「問い直し」のサイクルを意識した探究的な学びを生み出すための授業研究 ・教員相互による授業参観を実施し、実践の共有を通して、指導力の向上を図る。	・「学校楽しいーと」学習意欲	80%				
			・互いに学び合う良さを感じる教師の割合	90%				
c 自己認識を問い直す行事の創造	自分本位から主体形成への過程を大切にしたい行事づくり	・リーダー育成と人と関わる喜びを得る縦割り活動（異年齢交流） ・授業や暮らしで得た力をつなげ、生かす行事の創造	・「学校楽しいーと」自己肯定感	80%				
			・「はちの子の心得」振り返りが自己の目指す姿を現している	80%				
d 児童や大人の集いが充実する環境づくり	大人が学び合うコミュニティ・スクール活動	・地域の人・もの・こととつながる教育活動の創造（全学年） ・子どもを取り巻く保護者や地域の大人たちが「子ども理解を学び合う」場の創造 ・学校での学びを地域で生かせる地域と協働した行事の創造	・教育活動の満足度（保護者アンケート）	85%				
			・地域参加・社会貢献への意欲（5・6年児童アンケート）	80%				
			・保護者・地域の方のCS活動に対する認知度・理解度・参画意欲（アンケート）	70%				

評価基準… A：目標達成（95%～100%） B：おおむね達成（80%～94%） C：もう少し（60%～79%） D：できていない（59%以下）  
 目標値を100%として、達成率を計算する。「例 目標値85%→アンケート結果92% →目標値を超えているので評価はA」

F 結果の分析・解釈 (中間 10月)

a	b	c	d
---	---	---	---



G 改善方策案

a	b	c	d
---	---	---	---

学校の大きな方向性に照らして (問い直し):

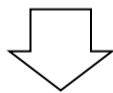
F 結果の分析・解釈・変容 (最終 2月)

a	b	c	d
---	---	---	---

G 改善方策案

a	b	c	d
---	---	---	---

学校の大きな方向性に照らして (問い直し):



学校関係者評価を受けての改善方策 (修正)